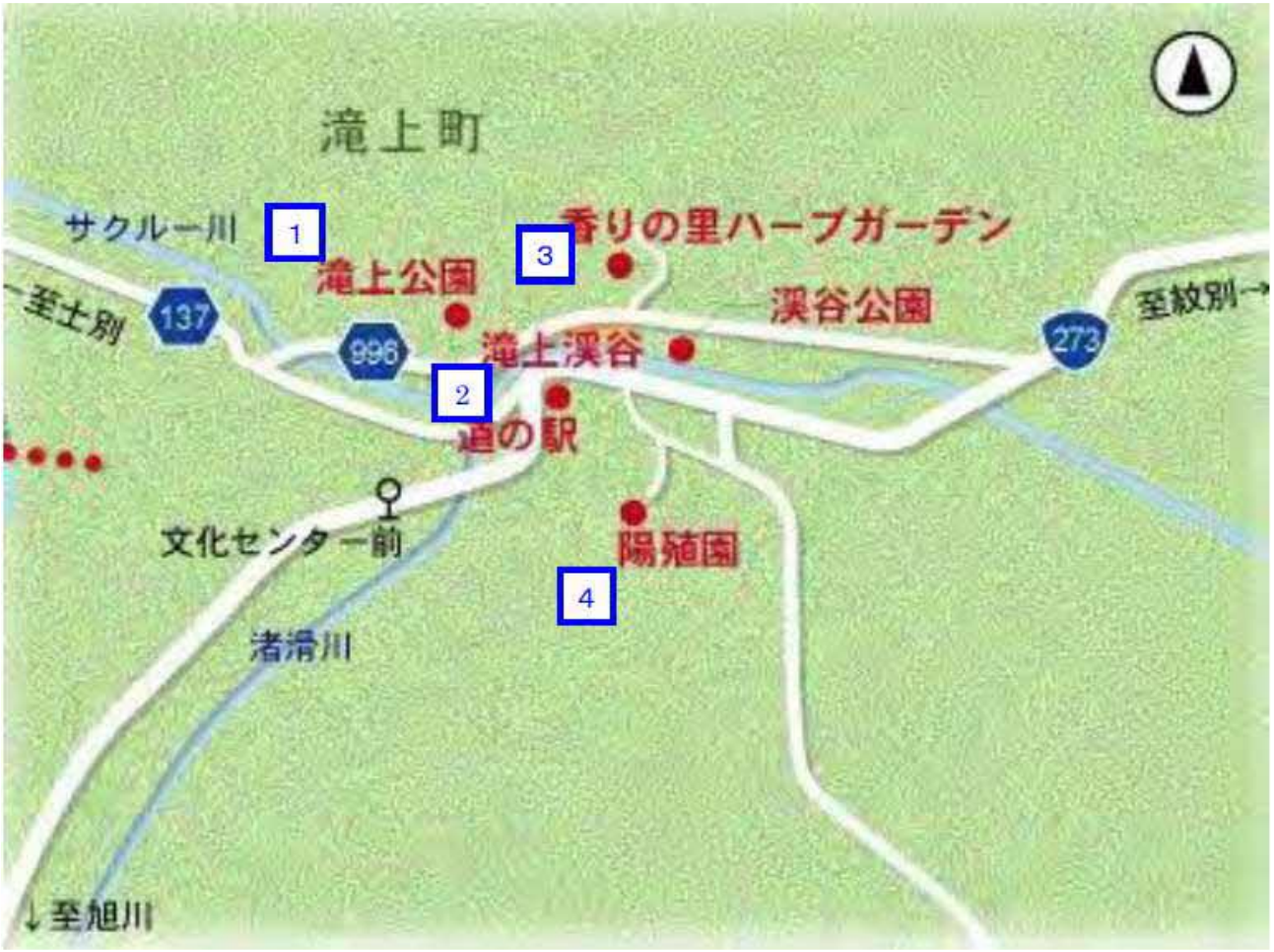
様式2

「地域の良好な景観資源」及び「主要な展望地」マップ	09	オホーツク総合振興局
	14	滝上町



0　　5km

凡例

□ 地域の良好な景観資源

● 主要な展望地

様式３

「地域の良好な景観資源」リスト			09	オホーツク総合振興局
			14	滝上町
No.	名称	写真	説明	
1	芝ざくら滝上公園		昭和29年洞爺丸台風（15号台風）の被害により滝上公園の桜の木が壊滅状態になりました。昭和32年、当時公園管理に携わっていた片岡兵治さんがお寺の境内に咲いていた芝ざくらを譲り受け公園の片隅に植えたのが、芝ざくら公園の誕生となります。昭和34年、芝ざくら公園として本格的造成が開始されました。同時に、行政と住民のボランティアによって根分け増殖が続けられ、現在では10万平方メートルの面積を誇る規模となっております。	
2	渓谷遊歩道 （渓谷錦仙峡）		滝上渓谷「錦仙峡」は市街地の中を流れる、全国でも珍しい渓谷です。町の中央を東西に流れる渚滑川は両岸に各2キロメートル余りの遊歩道が川に沿ってあります。この渓谷の両岸にある遊歩道では、春には清流に映える新緑、夏には木陰の涼、秋には紅葉、野鳥と出会えるバードウォッチングと四季を通じて楽しむことができます。	
3	ハーブガーデン		芝ざくらに続く観光基盤づくりとして着眼したのが香りの植物（ミント生産日本一）による観光開発で昭和59年から松造林地の開墾造成から始まりました。4ヘクタールの敷地内には約300種類のハーブがあり、6月から9月にかけて様々なハーブを楽しむことができます。	
4	陽殖園		自然風観光公園「陽殖園」は7万5千平方メートルの敷地内に約800種類の花が春・夏・秋それぞれの季節の花々が咲き誇り、訪れる人を楽しませてくれます。園主の高橋武市氏が、昭和30年に野菜売りをしながら花を植え始めたことがきっかけとなり、陽殖園の造成を始めました。昭和40年には完全無農薬、化学肥料を使わない花園作りに取り組み始め、草刈りや花の管理、品種改良など、園主一人で行っています。	
5				